

介護のゆくえ

岡山・動き出す改正保険

「まごのて」で夜もみてくれば、安心して娘の家にも行けるのに…」

要介護4の夫（七と二人暮らしの、瀬戸内市内の女性）もはつばやく。

「まごのて」は同市邑久町豊安の民間サービス。民家を改装し、一日十人ほどを日中預かる家庭的な施設だ。夫は二〇〇三年九月から、週五日利用している。

重い認知症のほか、血液の病気を患う夫。娘は広島市に嫁いでいるが、夫の発症以来行っていない。「まごのて」に行くようになり夫の症状は安定。女性自身も温かいケアに満足しているが、夫が他施設へ泊まるとうなると混乱すると思い、自分だけ外泊する気になれないという。

介護を必要とする高齢者の「通い」「泊まり」

中 迷う事業者



民家を改装した瀬戸内市邑久町の「まごのて」。お年寄りがスケジュールに縛られることなく、職員とゆったりとした時間を過ごしている。

「多機能型」不安と期待

「訪問サービス」をカ所で行う小規模多機能型の一つ。中川浩彰社長

居宅介護が四月から制度（三）は「小規模多機能型」にされる。環境の変化に弱い認知症の高齢者がいる家族にとっては朗報だ。

「まごのて」はこれまでも認知症のお年寄りの受け皿となってきた施設の一つ。中川浩彰社長

り、選ばれるかは不透明だ。

なりゆき見て

小規模多機能型居宅介護は、「まごのて」のような民間デイ、いわゆる「宅老所」がモデル。認知症の高齢者らに地域に密着したきめ細かいサービスをと、自然発生的にできた施設を、国が制度に組み入れたといえる。

報酬に大きな差

しかし、従来の宅老所がすんなり小規模多機能型に移行するケースは少ない。むしろ制度のなりゆきを見て決めたいと迷

介護報酬も宅老所事業者の悩みの一つ。国が定めた小規模多機能型居宅介護の報酬は、要介護3が月二十三

また、国の定める部屋数など基準の厳しさを指摘する声もあり、古民家を利用した民間デイ・香々庵（岡山市撫川）

のように、別の場所に建物を新築、そこで新しく小規模多機能型居宅介護を始めるところもある。

「要介護度の低いお年寄りの方が、認知症ケアでは大変。この額では1、2の高齢者を化すことなく、利用者数多くみるのは厳しい」と関係者は口をそろえる。

岡山県内の宅老所事業者などをつくる県民や業者を指定する市町村のビジョンにかかっていない」と話している。

メモ

小規模多機能型居宅介護 デイサービスを中心に、ショートステイ、訪問介護などを一つの施設で手掛ける必要施設数を定めて整備し、お年寄りが住み慣れた地域で最後まで過ごせるようにする。1事業所の登録利用者数は最大で25人。これまで別々の事業所が行っていたこれらのサービスを1カ所で行うことで、認知症のお年寄りらへの期待されており、今回の介護保険改正で創設された「地域密着型サービス」の目玉と位置づけられる。

利用者本位か不透明